

会 議 録

1 会議名

第1回上越市観光振興計画策定検討委員会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 上越市の観光の現状と課題を踏まえた今後の方向性について（案）（公開）
- (2) 意見交換（公開）

3 開催日時

平成27年8月11日（火）午後1時30分から

4 開催場所

上越文化会館4階 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：南賢二、花ヶ前盛明、渋谷聡、近田正一、竹内幸一、吉田昌幸、渡部准次、
中根章雄、鈴木六代、宮崎朋子、小林美佐子、田中陽子、野口裕太、
平原匡、水谷元昭
- ・事務局：秀澤産業観光部長
観光振興課 大坪課長、小林副課長、佐藤主任、西森主事

8 発言の内容

(1) 開会

(2) 委嘱状交付

※委員を代表して南賢二委員に委嘱状を交付

(3) 挨拶

（秀澤産業観光部長）

当市では、これまで第4次観光振興計画、これは平成23年度から平成27年度までの計画期間であるが、これに基づき、「上杉謙信公による上越市の観光イメージの確立」、そして重点集客エリアとして、「謙信公の居城、春日山城跡周辺」と「花と雪の城下町高田」を掲げ、観光振興に取り組んできたところである。

皆さんご存知のとおり、これまで、NHK大河ドラマの「風林火山」や「天地人」の全国放送、そしてガクト出演による謙信公祭での大きな集客効果があったこと、また、高田城百万人観桜会では平成24年度以降、毎年入込数の最高記録を更新してきていることなど、この間、北陸新幹線の開業を最大のチャンスと捉え、首都圏や関西圏で集中的に取り組んできたプロモーション活動が、一定の成果を上げてきているものと考えている。

広域交通網の整備については、北陸新幹線の開業のほか、4月21日には佐渡汽船、小木直江津航路に高速カーフェリー「あかね」が就航し、世界遺産登録を目指す佐渡ヶ島との周遊型観光の推進につながるものと考えている。平成30年完成予定の上信越道の4車線化も長野県をはじめ関東圏、さらには中京圏からの誘客促進にもつながるものと期待しているものである。

また、市内に目を向ければ、平成30年の新水族博物館の開館や平成31年には県立武道館の完成が予定されていることから、これらの施設を交流人口の拡大にしっかりと結び付けていかなければならない。

さらに、平成32年の東京オリンピックに向けては、外国人観光客、インバウンドの推進にも力を入れていきたいと考えている。

委員の皆様におかれては、上越市の観光の現状と課題を踏まえ、今後の方向性について忌憚のないご議論をいただき、次期、第5次観光振興計画が実行性のある、より良い計画となるよう、ご協力、お力添えをよろしくお願い申し上げます。

(4) 委員紹介

※上越市観光振興計画策定検討委員会委員名簿の順に紹介

(5) 正副委員長の互選

※会長に南委員、花ヶ前委員を選任

(6) 議事

(小林副課長)

議事に入る前に本委員会の位置づけについてであるが、本委員会では、当市の観光の現状及び課題、目指す姿や基本的な方向性、観光施策などについて、意見交換を行っていただくとともに、次期計画の骨子案や計画案について検討していただくこととしている。

本日の第1回検討委員会では、当市の観光の現状及び課題と今後の方向性について、ご意見をいただきたいと考えている。

「議事(1) 上越市の観光の現状と課題を踏まえた今後の方向性について (案)」

(佐藤主任)

※「上越市の観光の現状と課題を踏まえた今後の方向性について (案)」に基づき説明

(小林副課長)

※「上越市インバウンドの現状と推進に向けての取組み」に基づき説明

(小林副課長)

今回の計画の策定に当たり、株式会社リクルートライフスタイルから、関東、関西、中部圏などの在住者1,044名を対象に、当市の観光に関するインターネット調査を実施していただいたので、その結果概要について、本日出席の水谷委員から説明をお願いしたい。

(水谷委員)

※「新潟県上越市GAP調査報告書」に基づき説明

「(2) 意見交換」

(南委員長)

本日の会議は、観光の現状と課題、それと今後の方向性について、議論いただくものである。次期計画の策定に当たって、課題の認識が足りない、誤っている、または、今後の方向性について、この辺が弱いので力を入れた方が良い、これが強みであるからもっと打ち出した方が良いなど、どのような意見でも結構なので、委員の一人一人から一言ずつお願いしたい。

(花ヶ前副委員長)

北陸新幹線開業後、城下町高田の観光客、春日山周辺の観光客の動きに関心を持っているが、結果はまだ出ていない。しかし、一番の問題は、やはり五智地区。今までは湯沢から直江津へ来られた方(佐渡に行く方など)の時間待ちで、タクシーで短時間に五智地区に訪れるということがあった。新幹線開業後、五智地区には観光客がほとんど来ていないという現状がある。新水族博物館の直江津エリアについて、これから真剣に考えていきたいと思う。直江津に新幹線を通じての集客をどうしたら良いのかということについて今回の会合を通じて考えていきたい。

(渋谷委員)

観光入込客数の代表として、春日山城跡と高田公園が挙げられている。おそらく現在の上越市の2つの柱だと思う。上越市は城下町とのイメージがあるが、外から来ると戦

国時代の上杉謙信の春日山、江戸時代の松平忠輝公の高田城、という両者が整理されず、いっしょくたになってしまう。高田城に行ってみると、上杉謙信公とは時代も物も違うということが行って初めてわかるという印象だった。観光の場合は、資源のブラッシュアップと、どんなに素晴らしい資源でもそれを知らしめなければいけないという両方があると聞いている。二つ資源があって少しだけ時代がずれていて、それぞれに魅力がある。周遊という形で、戦国時代と江戸時代の歴女が訪れるのではないかとの反面、いまのところどちらも中途半端に思えてしまう。それぞれをどのようにブラッシュアップし、PRしていくかが課題と思った。

4年の計画でできる話ではないが、初めて観桜会を観たときに、高田公園の中、まして本丸跡に学校があることに不思議さを感じた。学校は大変大事であるが、さりとて、城の本丸でなければならないのかと感じたところである。

(近田委員)

上越市は自然や城下町の歴史・文化、雪国の文化など、資源は豊富であるが、絞りこめていない印象である。今後の方向的にはこのようなことに当然取り組んでいく必要はあるが、いくつかのテーマを絞り、周遊ができるように、単にエリアだけではなく、そこに人が流れる、滞在するよう模索していく必要があると感じている。それから、インバウンドが印象として弱い。国では観光立国ということで外国人旅行者の2,000万人達成を目指し取り組んでいる。上越市では去年は減ったとのことであるが、その原因がわかれば教えていただきたいし、今後の取組に結び付けてもらいたい。

今後のことであるが、ターゲットをある程度絞り込んで、どこから観光客を呼ぶのかを検討していく必要がある。せっかく北陸新幹線が開業し、上越市への交通の便が良くなったわけであるので、そこを最大限生かすべきである。

(竹内委員)

えちごトキめき鉄道が取り組んでいることの話をしていただき、今度のポイントになればと思う。

これまで、長野方面からの海水浴客が車で来るのが定番であった。北陸新幹線開業後、しなの鉄道と三セク同士で連携できないかということで、2日間2千円の格安のフリーきっぷを発売している。その中で、ただ切符を使って来てくださいというわけではなく、水族博物館、マルケーバスと浜茶屋からの協力を得て、割引を付けて発売した。水族博物館では40弱ほどの利用があった。浜茶屋では利用が伸びないようである。秋

には、長野方面で実施するなど、三セク相互の取組を進めている。

交通という面では、これまで車であったものを一人でも多く電車を利用してもらえるように取り組んでいる。これからの計画の中には、二次交通の充実がポイントと考える。

(吉田委員)

新水族博物館を核とした地域活性化検討会では、現在、人の回遊性や商品開発、地域団体の連携などワークショップを開き検討しているところである。

新水族博物館周辺の直江津エリアの新たな観光の形成とあるが、それを考える上で、水族博物館は夏の入込みが多いわけなので、それと合わせた海水浴客とか、日本海沿岸エリアの中でのテーマを一つ用意しておく必要がある。その中で、佐渡との連携や海をもととした他の地域との連携など通じて直江津エリアを更に活用していくことが必要と思う。

それを考える上で非常に重要なことは、地域資源をよく知る人材をどのように育成するか、あるいは知っている地域資源をどう活用していくかという点と考える。

上越市全体の話としては、GAP調査で上越市のイメージとして「何のイメージもない」との結果が強く印象に残った。たくさんの地域資源があることが上越市の特徴ではあるが、やはり絞り切れていない、物語性がないことが大きな問題と思う。高田城、春日山城、直江津には福島城とそれぞれ時代が違うので、その中で大きな物語性をいかに作っていけるかが、この上越市のイメージを考えたときに重要であると考えている。

(渡部委員)

上越商工会議所としては、上越観光コンベンション協会と連携しながら「謙信公の聖地フィールドミュージアム構想」を積み上げたところである。GAP調査の結果にもあるように、謙信公・春日山、高田公園が高く認識されていることもあり、以前から春日山は上越市の重要なポイントとの認識で取り組んでいる。東京や大阪での認知度はまだまだ低いので、継続してPRしていくことが大事と思う。

平成26年と平成27年にかけて、来年放映予定のNHK大河ドラマ「真田丸」にあやかり、上田商工会議所と連携し、山城と武将に着眼して着地型観光の造成に取り組んでいるところである。先般、エージェントを対象にしたツアーを実施したところである。エージェントからの指摘では、市内では大手エージェントと契約をしているところが非常に少なく、エージェントを送り込むに当たって施設の問題があ

るとのことであった。当日、エージェントとの商談会の機会あり、地元十数社から参加いただいたところで、今後どのようにつながっていくか様子を見ていきたい。今回は旧市内だけであったが、13区でも興味を持っている地元事業者が多いが、エージェントとしては受入れの体制がしっかりしていないと旅行が組めないとのことであった。エージェントには、春日山城跡を中心に林泉寺、春日山神社などを周っていただき、春日山からの眺望は非常に良かったとの声があった。食については、くびき牛や地元料理を提供したが、海鮮の方が良いとの声や、気付かなかったところでは、白いごはんを求める声が多かった。また、高田世界館や地元のガイド、武将のガイドも非常に評価が高かった。

我々としては、関係機関と連携しながら着地型観光の商品造成を通じて観光に力を入れていきたいと考えている。意見というよりも、現状と今回の事業の特徴を報告させていただいた。

(南委員長)

施設の問題点とは何か。

(渡部委員)

エージェントと契約している宿泊施設、飲食店が非常に少なく、上越市に足を運んでももらえないと聞いている。

(中根委員)

観光振興の最大の役割・ミッションは、外から観光客に来ていただき、知っていただき、経済活動をしていただく、それが地域への貢献であると思う。当然、そこに地域の方々との交流もあるが、経済活動と思っている。小泉政権の下、国も観光立国としてビジット・ジャパンが始まり、途中政権が交代しても観光は国の施策の中での非常に大きな柱となっていると思っている。先ほどの話に出たインバウンドが、人口が減って国力が衰退すると思われる中、まさしく外からお金を入れるということではわかりやすい構造である。同じことをやっていくべきと思うし、他の市町村でもやっているのだから、外から来てもらうということに主眼を置いて、事業を進めていきたい。

今度の方向性の中でも濃淡を付けて、いかに観光客に来てもらうか、地域に貢献する視点で進めてもらえればと思うし、外から来てもらうための早道が、今後の観光の方向性の一つの新たな交流機会の創出にある「外国人旅行者の誘致」と目的をもって訪れる「MICEの誘致」ではないかと思っている。

(鈴木委員)

実際に現場でガイドをする中で聞く意見として、GAP調査の結果とほぼ近い意見が出る。食べ物は美味しいし、景観はすばらしいし、歴史・文化も揃っているが、アクセスが良くない、遠いイメージ、見どころがわからないといったことがある。これは、広告の問題であると思う。例えば、松本で上越市の蓮の広告を見て、即、車で来た方がいた。どこかできっかけとなって上越市のことを知ることが大切なので、見どころなどを徹底的にPRしていくべきである。今後、新水族博物館がオープンするわけなので、海水浴をセットにして、海のない群馬・埼玉辺りから来てもらうよう、広く知らせていく必要である。

インバウンドで外国人も案内した。町屋などもとても喜ぶが、やはり行き着くところは食である。大型バスや乗用車が入ることができる、できれば謙信公の春日山の麓に団体受入れのできる飲食施設が作れないものかと思う。

広告、食事のできる良い場所と美味しい食の提供、そして、春日山や五智などを観ていただければ、絶対に観光客は来ると強く言いたい。

(宮崎委員)

私ども団体は、並行在来線を応援する女性だけの会ということで3年前に発足した。今日この会に出席させていただいたことに感謝している。また、個人的には城下町高田花ロードをコーディネートしている。その見地から4点ほど気づいた点等の話をさせていただく。

まず、この資料に人に関しての意見が出てきていない。もう少し発信力のある人が必要であると思う。

2点目に、GAP調査の結果を聞いて、意外と上越市に自信を持っても良いと思った。

3点目に、観光案内所でアンケート調査を行った中で、息子や娘に気兼ねして、行きたくても行けない人とか、なかなか人にも頼めない人がいる。そうであれば、待っているだけではなく、迎えに行くような姿勢も観光振興ではあっても良いのではないかと思う。

4点目に、何か事前に告知しようとする、エージェントには2年くらい前までに、お願いをしてパッケージを作らないとなかなか伝わっていかない。私どものような市民団体や小さな団体は、エージェントと直接お話しできる機会がないので、その辺の情報提供をお願いしたいと思う。

(小林委員)

平成23年と平成26年との比較で、入込客数は増えているが宿泊者数が減っている。上越市にとって大切なことは、滞在型の観光を増やすべきと感じた。私どもが事務局となっている越後田舎体験では、現在は教育旅行など中心だが、一般の方でも体験、滞在できるようにしていきたい。先ほど、物語性があればという話があったが、物語性を作るには、それを伝える人が必要で、自分たちが満足するだけではなく、どう観光客に伝えていくかが重要と思っている。これからは、観光客の立場に立ったコース作りが大切であると思う。行政の立場からすれば全域のコースにしたいと思うが、とりあえず、名前の売れるような、「これは」という物語性のあるコースを一つ作るべきである。

田舎体験の教育旅行では、海の体験のオーダーもあるが、柿崎や大潟で海の体験ができる程度で、200人、300人の大人数を受け入れられるところがないのが現状である。今後は、学校団体だけでなく、大人でも体験することにより滞在し、泊まってもらえるよう、もう少し掘り下げて、コース作りをしていきたいと思う。

上越妙高駅周辺の釜蓋遺跡の見学をした際に、当時の村づくり、コメ作り、そこから上越の平野部が歴史的につながっていくことを聞き、すばらしい資源があると思った。観光とは少し違うところもあるが、関係部署と繋がりを持ったコース作りをしてもらえばとおもしろいと感じた。

上越市は豪雪地帯であり、やはり雪を活用しない手はない。灯の回廊をもう少し長いスパンで盛り上げていけば、上越市は雪のまちとのイメージを持ってもらえるものと思っている。雪をもっと有効的に使っていきたいと思う。

(田中委員)

コープニュースでは全国の生協の情報を扱っている。実家は上越の鶴ノ浜にあるが、現在、離れて暮らしているので、外から見た視点で話をしたいと思う。

上越市では、特産品開発支援事業審査委員会とメイド・イン上越認証等審査委員会の委員を兼任させてもらい、上越市の歴史ある商品をもっと深く知ることになり、非常に勉強になった。

先ほどGAP調査の結果にもあったが、何のイメージもないという点は、なるほどと思った。食の特産品を作る試みの際にも、米も魚も野菜もあるという状況があるが、何か一つしかない方が特産品を作りやすいということもあった。観光に置き換えるとそうかなと思う。反対に、先ほど上杉謙信公と高田公園で、紛らわしいとの

話もあったが、リピート率を高められる観光のあり方を探れると思う。特に北陸新幹線の開業により関西圏、関東圏から短時間で来られるようになったわけで、観桜会に来られた100万人に向けて、次は、春日山の魅力のすばらしさをしっかり伝えれば、一度来た人は遠いとは思わないと思う。一度来た観光客を逃さないためには、人が大切である。観光資源としての人の育成は、これから大切になると思う。観光ガイド、旅館の女将さんも含めて、おもてなしの意識を高めていく取組ができれば、何回も行きたい上越というイメージ作りができると思う。

リピート率と人づくりを課題として伝えたい。

(野口委員)

資料が非常に良くできているので、これを読み込めば、おのずとやるべきことが見えてくると思う。それを踏まえて2点お願いしたい。

1点目は、上越市の認知度を向上させる取組が必要と考える。GPA調査の結果で、上越市のことを名前は知っているが行ったことがないという人が半数以上いることを踏まえると、満足度が高くかつ訪れたことがないという資源をもっとアピールしていく取組が必要と考える。

2点目は、宿泊観光型旅行の目的地を決定する際に、携帯電話の情報を参考に宿泊地を決める人が増えることが予想される。世の中で発信力のある人たちを積極的に上越に招いて、その人を通して情報を発信していく取組も求められると思う。

(平原委員)

地元で観光資源コンサルタントを経営し、佐渡にも10年ほど観光に携わってきた。

大きくは6つある。1点目は、灯の回廊の受けが良いとのGPA調査の結果が出ているので、重点エリアとして、中山間地域の振興、合併した旧町村の振興という観点で大きく出した方が良いのではないかと。自然の良さという魅力がある。

2点目は、二次交通の整備に、在来線の利便性の向上と活用として、えちごトキめき鉄道を入れた方が良いのではないかと。

3点目は、先ほども意見が出たが、広報・広告の問題。商品ができてPRができない。お金を払って広告を出すのではなく、口コミで広げること、発信力のある人が発信することが必要と思う。

4点目は、宿泊施設の問題。GAP調査の結果にあるように、いい宿泊施設があることが来訪の理由になっていない。農家民宿とか町屋のゲストハウスとか、超一流ホテル・旅館とかバラエティを求めることでより宿泊率が増えると思う。

5点目は、観光パンフレットで魚が掲載されていない。魚が売りであれば、出していく、売りでなければ、このままで良いが。

6点目は、全体として、観光ビジネスへの意識が必要である。観光に携わる人が増えなければ、観光客は来ないと思う。経済の一つとして、政府も観光はビジネス、新産業と言っているので、観光ビジネスの創造、育成が必要であり、もっと産業として上越市が育つような施策を打つための計画になってもらいたい。

(水谷委員)

3点あるが、まず、観光で求められるものとして、やはり食である。その食に対する関心度は新潟県全体で高い。ただ、一方で、どの時期にどこでどのような物が食べられるのか、旬の情報をしっかり発信していかないと食べに来てくれない。

2点目は、山もあり、海もあり、雪もありと上越市には自然の資源がたくさんある一方で、四季を通じた情報の発信を計画的に行っていく必要があると感じた。旅行の計画を立てる少し前の段階で、誰に対してどこにきてもらうのか、緻密な設計と地域での取組を両輪で回していかなければならないと思う。

3点目は、宿泊に関して、近隣では妙高市など宿泊施設が多いエリアとは競合でもあるので、どう差別化するのか、どう連携するのか両面で戦略を作っていかなければならないと思う。例えば、朝、高田城を散歩すると何かパワーがもらえるなど、上越に泊まりたいと思わせるストーリー作るとか、宿泊しなければ体験できないもの作っていくと面白いと思う。

今後も弊社の蓄積したデータを提供するので、活用していただければと思う。

(南委員長)

気になる点を申し上げる。「観光旅行者誘致強化のための重点集客エリアの周遊形成の取組」であるが、重点集客エリアと位置付ける以上は、重点ではないエリアもあると思う。鵜の浜温泉と海浜エリアをどうするのかの方向性をある程度示す必要があるのではないかと。また、越後田舎体験とか信越トレイルといったエリアをどうするのか、重点とするかしないかは別として、エリアとしては入れていく必要があるのではないかと。

「観光関係団体や観光事業者など多様な主体との連携による周遊形成」では、先ほど北陸新幹線を活用した広域周遊の話が出たが、周辺自治体と連携した広域周遊を入れていた方が良いのではと感じた。

事務局で検討いただきたい。

(7) その他

なし

(8) 閉会

(小林副課長)

次回の検討委員会は、9月上旬の開催を予定している。あらためて開催の案内を送付させていただくので、出席をお願いしたい。

9 問合せ先

産業観光部観光振興課観光企画係

TEL : 025-526-5111 (内線 1385)

E-mail : kanko-shinko@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。